

(参考様式)生産記録

●対象活動: 江(水田ビオトープ、生き物緩衝帯)の設置

組織名	環境営農組合
氏 名	雲南太郎

- ・配布した実施区画を参考に原則圃場ごとに生産記録をまとめてください
- ・ただし、同じ取組、同じ栽培方式、同じ作物ならば、別々の圃場でも一枚の生産記録にまとめて良いです

ほ場名(番号)	実施面積	作物名(5割低減)
圃場番号1~10	15a	つや姫

※実施面積は法面や畦畔を除いた値とすること

1. 対象活動

(1) 主な作業等

作業名	実施状況	実施時期 (年月日)	備考
本年取組向けの作溝作業	☐ 新設		
☐ 作溝作業の実施あり	☐ 延長()		
☒ 作溝作業の実施なし	☒ 補修(漏れ補修)	R7.5.15	
(令和 年 月頃設置)	【江の形状】 長さ m、水面幅 cm、深さ cm		
深みの設置	底面からの深さ cm、設置数 箇所		

今年度した作業内容と江の形状についての確認です
・実施状況 ⇒ 延長や補修を行ったか
・江の形状について ⇒ 長さ / 幅 / 深さ / 深みの設置数

(2) 江の設置箇所への除草剤の使用実績(本田内の除草剤使用実績を除く)

■ 使用無し

(3) 江の設置期間

	実施状況	備考
湛水開始時期	R7.6.20	
湛水終了時期	R7.7.15	
湛水期間	26 日間	

江の設置期間(湛水期間)の確認とその期間中の除草剤の使用についての確認です

(留意事項) ウシガエルやアメリカザリガニ等の侵略的外来生物が生息する場合は水を抜いて駆除を検討する。
生き物調査などモニタリングを合わせて行うことが望ましい。

窒素成分量の計算の仕方
窒素成分の割合×使用量
例)
 $15\text{ kg}/10\text{ a} \times 20\% = 3.0\text{ kg N}/10\text{ a}$

2. 使用肥料(5割低減の取組)

資材等の名称	化学肥料 窒素成分 の割合(%)	使用量 (kg/10a)	【5割低減】 化学肥料 窒素成分 (kgN/10a)	【慣行レベル】 化学肥料 窒素成分 (kgN/10a)	使用時期	備考
〇〇500	15	20	3		令和7年〇月〇日	
合計						

(注1) 化学肥料のほか、指定混合肥料、混合堆肥複合肥料、混合汚泥複合肥料などの化学肥料窒素成分を含む肥料を施用する場合は全て記載すること。
(注2) 適宜、行を追加して記入すること。

3. 使用農薬(5割低減の取組)

農薬名 (商品名、剤型)	用途	【5割低減】 節減対象農薬 成分回数	【慣行レベル】 節減対象農薬 成分回数	使用時期	備考
〇〇粒剤	殺菌剤	1		令和7年〇月〇日	
〇〇粒剤	殺虫殺菌剤	3		令和7年〇月〇日	
〇〇フロアブル	植物成長調整剤	1		令和7年〇月〇日	
〇〇乳剤	除草剤	1		令和7年〇月〇日	
〇〇顆粒水和剤	殺虫剤	-		令和7年〇月〇日	日本農林規格(JAS)適応
合計		6	10		

(注1) 有機農産物の日本農林規格で利用可能な表B.1の農薬も含め、使用した農薬は全て記入すること。
(注2) 適宜、行を追加して記入すること。

成分回数の計算の仕方
農薬が含む有効成分の数×散布回数
例)
殺虫剤(2成分)×散布1回=2
殺菌剤(1成分)×散布1回=1
殺菌剤(2成分)×散布1回=2
殺虫剤(2成分)×散布1回=2

4. 保管書類

☐ 写真 ☐ 使用した農薬、化学肥料の購入伝票

☐ がある項目については、該当する項目の□に■又は✓を記入すること。